

へいせい ねんど
平成20(2008)年度

がいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ おーぶんかいぎ
外国人市民代表者会議 オープン会議

しゃかいせいかつぶかい
社会生活部会

いりょうかんけい いけん
1. 医療関係の意見

- ・薬局で、最近では英語で説明してくれるところも増えてきている。
- ・日本は翻訳の機械が優れているので、日本語で入力して多言語に翻訳される機械を病院や薬局に置いて対応すればいい。現在のインターネットでもその機能はあるかもしれない。
- ・ずきずき痛むとか、しくしく痛むなどの日本語の微妙な表現をデータベース化することも必要。
- ・麻生区に外国人情報ヘルプラインというものがある。情報がある、ということはどうやって困っている外国人に届けるかということが難しいと感じている。
- ・現在、県や川崎市には医療通訳や医療ガイドがあるが、それでも川崎で外国人のための医療情報はなんなのかということは今話し合っているのだと思う。
- ・外国人のための生活用語を記したテキストがあり、看護婦さんとお医者さんの絵が描いてある。これに、ひらがなでルビがふってある。絵を見ればどこの国の人でもすぐわかると思う。
- ・日本語がうまく話せない人が、119番をかけるときにどうするのか心配。とりあえず日本語を話せる知り合いを探すことしか思いつかない。知り合いもない時にはどうすればいいのだろうか。
- ・外国人が困ったときに、医療のことだけでなく、ホットラインのようなものを設け、そこで多くを対応できるようにすれば活用するようになるのではないか。
- ・1分間で何千円もするが、NTTは何語でも対応できるようになっている。人命が救われるのであれば安い。ただしあまり知られていない。
- ・そのシステムは、電話して通じなければ、相手方がそれに切り替えてくれないと意味が無い。
- ・ホットラインのようなところがあれば、そこにそのシステムを備えればいい。ただし、全ての言葉は無理なので、使う人が多い言葉で用意し、そこから119番などに連絡するがいい。
- ・横浜市ではコールセンターというところがあり、そういうことをやっていると聞いている。川崎市はどうか。

2. そのほか

- ・自分は教師で、親あてのプリントに今日の資料のようにルビが振ってあることで外国人の親にとって大変役立っている、ということをよく聞く。
- ・この会議の成果が「多言語広報資料一覧」の中にある。ただ、これを当の外国人が活用できていないのでは。
- ・県のことが、国際運転免許の切替が大変面倒だった。インターネット情報が古かった。情報をもっと取りやすくしてほしい。更新も必要だし、アクセスのしやすさも必要。
- ・代表者会議の議事録のウェブサイトが更新が遅い。
- ・外国人登録の法律が変わると聞いているが、これからの課題として、川崎市ではこう変わって欲しいといった議論もしたらどうか。
- ・外国人登録窓口など、外国人のための窓口は、区役所に英語の表示はあるものの、もう少し大きいといい。またほかの窓口も外国人も使う。
- ・中原区役所の入口には、多言語で全部の課が書いてある。ほかの区役所にもあるといい。
- ・再入国の入管手続きの煩雑さをなんとかしてほしい。
- ・主婦で3人子どもがいて、仕事をしたくてもできない。中学でお弁当になっているが給食があると助かる。

- 日本人の主婦はお弁当を非常にきれいにつくるが、外国人にはそういう習慣がない。
- 毎月、学校を通じてお弁当屋さんに1ヶ月前に注文できるが、知っている限りでは、まだ、始まったばかりだったということもあって、あまり人気はなかったようだ。
- NHKの料金徴収の人が来たものの、言葉も通じず、自分の国にそういった習慣もなく、何のことかわからなかった。どこに聞けばいいかわかればすごくありがたい。
- 日本の場合、日本にいる人は皆日本語ができるという前提に立っている。そうでないという人もいることをわかってもらえると、ずっと暮らしやすくなる。
- 大学教員だが、具体的なお話がとても参考になった。給食のことなど、多くの日本人は全く考えもしないことだと思う。オープン会議は特にそういう話が聞ける場。全てがすぐに改善されるものではないが、この会議から発信されていけばいいと思った。